

1 学習目標

- グループによる参加型学習（イメージマップ）活動において、自分の考えを引き出すことができる。
- グループで、出し合った考えをまとめ、日本語で理由を表す文を3つにまとめることができる。

2 準備

マグネットシート、ワークシート1、イメージマップシート1、付箋紙、振り返りシート1

3 展開

時間	学習活動	◎指導上の留意点及び支援の工夫 (■「おおむね満足」に達していない生徒への手だて)	○具体の評価規準 A「十分満足」 B「おおむね満足」(評価方法)
10	○これから6時間かけて行う学習内容を知る。 ○本時の学習内容を知る。	◎英語の意見文を書く意義を知らせる。事前調査(別紙)の内省記述を基にして、なぜ「まとまった」英文を書くのか説明する。 ◎自分の意見に対する理由や根拠を表す考えを生み出すためにグループによる参加型学習(イメージマップ)活動を行うことを説明する。	
10	<b>テーマに対する自分の意見や考えを生み出す方法を学習しよう</b>		
10	○イメージマップを用いてアイデアを出す方法を知り、練習をする。 [学習形態: 全体] ・連想ゲームのような要領で思いついたことをどんどん発言する 「うどん」 織物 「ハチ節」 …	◎身近な例をもとにアイデアを出し合う方法を日本語で練習させる。「桐生を訪れる外国人に桐生の良さを紹介するとしたら何を紹介しますか。」 ◎生徒から出された考えを板書し、同じような言葉は分類整理しながら図解する。 ◎友達のアイディアを批判しないこと、自由奔放に思いつくことを出し合い、質より量であることを伝える。	
15	○事前調査の問題でイメージマップ活動を行う。 [学習形態: グループ] {イメージマップシート1} ・自分が選んだ立場に対する理由を付箋紙に書き出す。 ・一人ずつ自分の書いた付箋を声に出しながらグループで紹介していく。	◎事前調査の問題から、意見が同じ生徒同士でグループを作っておく。 ◎付箋紙を使って思いつく理由を5つ出すように伝える。 ◎グループで行うことにより、仲間の考えを参考に思考を広げさせる。 ◎アイデアを自由に出させるために日本語で行う。 ■机間指導をしながら、よいアイデアが出せるようヒントを与える。	○グループによるイメージマップ活動において、自分の考えを付箋紙に書くことができる。 A 自分の考えを5つまたはそれ以上書くことができる。 B 自分の考えを4つまたは3つ書くことができる。(観察、イメージマップシート1、振り返りシート1)
10	○アイデアを分類整理する。 [学習形態: グループ] ・分類整理したアイデアを3つ選び、グループで理由を表す文を日本語で3つ作る。 {ワークシート1}	◎同じような理由をまとめて、それぞれを項目付けして整理する。 ◎自分たちのグループの主張を裏付けるものとなるよう取捨選択させ、理由を表す文を日本語で3つ作るように指示する。 ■理由の文を効果的にまとめられるよう助言を与えながら個別支援する。	○グループでアイデアを分類整理して理由を表す文を日本語で作ることができる。 A 3文書くことができる。 B 2文書くことができる。(観察、ワークシート1、振り返りシート1)
5	○本時の学習を振り返り自己評価する。 [学習形態: 個人] {振り返りシート1}	◎本時を振り返らせ「グループでイメージマップを行い、テーマに対する友達のことを聞くことは自分の考えを広げることに役立ったか」を自己評価させる。	

1 学習目標

- 英語の意見文の文章構成を理解する。
- 与えられた意見文のテーマを1つ選び、主題文、結論文を英語で書くことができる。

2 準備

センテンスカード（グループ用・提示シート用）、文章構成手順シート、ワークシート2、振り返りシート2

3 展開

時間	学習活動	◎指導上の留意点及び支援の工夫 (■「おおむね満足」に達していない生徒への手だて)	○具体の評価規準 A「十分満足」 B「おおむね満足」(評価方法)
5	○前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容を知る。	◎前時に自分の意見の根拠である考えを引き出す学習をしたことを踏まえ、本時は意見文には書き方があることを知らせる。 (前時) <b>何を書くか</b> → (本時) <b>どう書くか</b>	
15	<b>英語の意見文の文章構成を知り、テーマを選んで書いてみよう</b>		○英語の意見文の三段構成に気づき、理解している。 A 提示された英文の内容を理解しながら主題文、支持文、結論文からなる三段構成が理解できる。 B 提示された英文のつなぎ言葉を手がかりに主題文、支持文、結論文からなる三段構成が理解できる。 (観察、センテンスカード、振り返りシート2)
	○英語の意見文の文章構成を理解する。 [学習形態：グループ] ・適切な文章構成になるよう文を並べ替える。 ・文章を並べ替える時にどんなことに注意したか発表する。 ・英語の意見文の論理展開が三段構成であることを知る。	◎各グループにセンテンスカード（英文が1文ずつ書かれたカード）をそれぞれ5枚配り、意味が通るように文章を組み立てさせる。 ◎支持文の中の First, Second, Third、結論文の前に置く So などのつなぎ言葉を使うことが、単なる文の羅列ではないまとまりのある文章を構成している点に気付かせる。 ■つなぎ言葉の意味を示し、文の順序を考えさせる。 ◎黒板にセンテンスカード（提示用）を示しながら意見文の書き方が主題文、支持文、結論文からなる三段構成であることを説明する。	
25	○自分が書くテーマを決め、主題文を英語で書く。 [学習形態：個人] [文章構成手順シート] [ワークシート2] ・与えられた4つのテーマから1つを選択し、(二者択一の) どちらの立場を取るか決める。 1 昼食は弁当と給食、どちらがよいか 2 「小学生は携帯電話を持ってもいい」この意見に賛成か反対か？ 3 映画を見るなら家と映画館、どちらがよいか 4 「若者は都会に住んだほうがよい」この意見に賛成か反対か？ ○結論文を英語で書く。	◎黒板に貼ってあるセンテンスカードから主題文を確認させ、最初に自分の意見を書くことが大切であることを伝える。 ◎文章構成手順シートを手がかりに主題文の書き方は選んだテーマにより2通りの書き方があることに留意させ、クラス全体で既習表現を用いて復習しながら理解させる。 例：I think … is better. (1,3を選択) // I agree with this opinion. (2,4を選択) ■主題文が英語で書けない生徒には文章構成手順シートに示された型や板書した既習表現を個別指導しながら英語で書けるよう支援する。 ◎接続詞を使って結論文（文章の最後に主題文を繰り返す文）を英語で書かせる。 ■結論文が英語で書けない生徒には文章構成手順シートに示された接続詞を主題文の前に t 付ければよいことを助言する。	○自分が選んだテーマについて主題文と結論文を書くことができる。 A 文章構成手順シートの主題文、結論文の書き方を活用し、英文で書くことができる。 B 文章構成手順シートの主題文、結論文の書き方を活用し、日本語混じりの英文で書くことができる。 (観察、ワークシート2、振り返りシート2)
5	○本時の学習を振り返り自己評価する。 [学習形態：個人] [振り返りシート2]	◎英語の意見文の書き方で分かったことなど記述させる。 ◎次時は支持文（根拠や理由を表す文）を書くことを予告する。	

1 学習目標

- グループによる参加型学習（イメージマップ）活動を通して、同じテーマを選んだ生徒同士で支持文の内容を深めることができる。
- 主張の根拠となる支持文を日本語で3文書くことができる。

2 準備

ワークシート3、イメージマップシート2、付箋紙、資料1（まとまりのある英文で自分の意見や考えを書くために-1）

3 展開

時間	学習活動	◎指導上の留意点及び支援の工夫 (■「おおむね満足」に達していない生徒への手だて)	○具体の評価規準 A「十分満足」 B「おおむね満足」(評価方法)
5	○前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容を知る。	◎意見文の文章展開が三段構成であることを確認しながら、本時は主張の根拠となる支持文の内容を深めながら、支持文を日本語で書いていくことを知らせる。	
15	<p style="text-align: center;">イメージマップを参考にして支持文（理由や根拠を表す文）の内容を深めよう</p> ○イメージマップ活動を行う。〔学習形態：グループ〕 {イメージマップシート2} ・同じテーマで同じ立場を取った生徒同士で、理由や根拠となるアイデアを付箋紙に書き出す。 ・アイデアを分類整理する。	◎前時のワークシート2を基にグループ作りを事前しておく。 ◎付箋紙に自分の考えを書き出させるが、英語で表せる言葉は英単語で書くように伝える。 ■机間指導をしながら、よいアイデアが出せるようヒントを与える。	グループによるイメージマップ活動で、テーマ文に対する理由や根拠を付箋紙に書くことができる。 A アイデアをどんどん出し、的確に分類整理し、知っている言葉を英語で書いている。 B 友達のアイデアを参考にして自分のアイデアを日本語で書いている。 (観察、イメージマップシート2)
5	○支持文を書く際の留意点を聞く。 [学習形態：全体] {資料1-まとまりのある英文で自分の意見や考え書くために-1}	◎支持文を書く作業に移る前に資料1を配布し、日本語から英語に直す際の注意点を説明する。 ・相手に伝える視点で書くこと。(知らない単語を多用しない) →既習の文型や単語を使って表現すること。 ・書くこともコミュニケーションの手段であること。	
20	○支持文のアウトラインを作る。 [学習形態：個人] {ワークシート3} ・テーマ文に対する自分なりの理由や根拠を表す文を日本語で3文作る。	◎イメージマップで出し合った考えを参考にして自分なりの理由や根拠を表す文を日本語で3文作るように指示する。 ◎早く書けた生徒にはより具体的な内容になるように吟味させる。 ■ワークシート3にある例文を参考に文章を考えるように助言する。	自分の主張の根拠となる支持文を日本語で作ることができる。 A 主題文に関係した内容を具体例を挙げて3文書くことができている。 B 主題文に関係した内容を3文書くことができている。 (観察、ワークシート3)
5	○本時の学習を振り返り自己評価する。 [学習形態：個人] {振り返りシート2}	◎自分の書いた日本語を英語に直す時の課題は何かを記述させる。 ◎ワークシート3を回収する。	

1 学習目標

- 前時に日本語で書いた支持文を相手に伝えるという意識を持って、日本語変換シートをもとに書き直すことができる。
- 書き直した日本語を既習の表現を使って英語にすることができる。

2 準備

マグネットシート、資料2（まとまりのある英文で自分の意見や考えを書くために-2）、日本語変換シート、英語表現シート、単語シート、ワークシート3・4、振り返りシート4

3 展開

時間	学習活動	◎指導上の留意点及び支援の工夫 (■「おおむね満足」に達していない生徒への手だて)	○具体の評価規準 A「十分満足」 B「おおむね満足」(評価方法)
5	○本時の学習内容を知る。  1、書いた日本語をチェックしよう→その日本語は英語にしやすいですか？→難しい言葉はやさしく言いかえてみよう  2、支持文を英語に直そう→相手に伝えることを意識し、今までに習った表現を使って書こう	◎前時のワークシート3を返却し、マグネットシートを用いて本時の学習内容を伝える。	
10	○日本語と英語の表現の違いを知る。 [学習形態：全体] (資料2-まとまりのある英文で自分の意見や考えを書くために-2) ・説明を聞き、例題を解く。	◎生徒が日本語そのものを英語に直そうとして思うように表現できないことで英語を書くことに苦手意識を持っているという実態を踏まえ、資料2を配布する。 ◎例題を手がかりに日本語で書かれた意味を英語にすることを説明していく。	
15	○支持文を相手に伝えるという意識を持って書いた日本語を書き直す。 [学習形態：個人] {日本語変換シート} {ワークシート3・4} ・ワークシート3に書いた支持文を日本語変換シートを参考にして、ワークシート4に書き直す。 ・書き直した日本語の支持文を教師に見せる。	◎ワークシート3に日本語で書いた支持文の難しい表現や回りくどい表現を日本語変換シートをもとに知っている表現で言いかえさせる。 例：「弁当は作る手間がめんどう」→「～を作る必要がない」 「会話のネタ」→「～についてよく話すことができる」 「家の都合で」→「いろいろな理由で」 ■机間指導をし、日本語変換シートをうまく活用できない生徒には個別指導を行う。 ◎学習の進んでいる生徒は、支持文の内容を具体的にするために文を補足するよう伝える。 ◎生徒が訂正した箇所を中心に申告させ、英語に直すことが可能か判断させる。	日本語で書いた支持文を日本語変換シートをもとに書き直すことができる。 A 書き直した日本語の文章を具体例を挙げながら既習表現の英語を使って表現できる文になっている。 B 書き直した日本語の文章を既習表現の英語を使って表現できる文になっている。 (観察、ワークシート4)
15	○書き直した日本語の支持文を英語に直して書く。 [学習形態：個人] {英語表現シート・単語シート} {ワークシート4} ・表現シートや単語シートを参考にし、英語で書く。	◎書くこともコミュニケーションの手段であることを説明し、自分の書いた英文が読み手に分かるよう未習の単語や表現を多用しないことを伝える。 ◎生徒が英語の表現(構文)を効果的に使えるように既習の表現をまとめた表現シートを配布し、英文で書く際の参考にさせる。 ◎前時に回収したワークシート3の生徒の文章から頻度の高い言葉を中心に単語や熟語をまとめた単語シートも併せて参考にさせる。 ■机間指導をし、自分の書いた日本語を英文にうまく直せない生徒には表現シートや単語シートの中から使えるものを示すなどして個別指導する。	書き直した日本語の支持文を表現シートや単語シートをもとに英語に直して書くことができる。 A 既習表現を用いて支持文が3文書け、さらに具体例を書いている。 B 既習表現を用いて支持文が3文書けている。 (観察、ワークシート4、振り返りシート4)
5	○本時の学習を振り返り自己評価する。 [学習形態：個人] {振り返りシート2}	◎日本語変換シートや表現シート・単語シートを活用し、自分が伝えたいことをどの程度英文にできたかを確認する。 ◎次時は学びあい活動をすることを予告する。	

1 学習目標

- 友達の書いた意見文をグループで読み合い、チェックリストをもとに改善点を指摘し合うことができる。
- 指摘された改善点を基に自分の書いた英文を振り返り、書き直すことができる。

2 準備

マグネットシート、英文チェックリスト (学び合い活動用)、ワークシート4・5、振り返りシート5

3 展開

時間	学習活動	◎指導上の留意点及び支援の工夫 (■「おおむね満足」に達していない生徒への手だて)	○具体の評価規準 A「十分満足」 B「おおむね満足」(評価方法)
5	<p>○本時の学習内容を知る。</p> <p>友達の書いた英文を読み合おう→その英文は伝えようとしていることが分かりますか</p> <p>チェックリストを基に改善点を指摘し合う学び合い活動</p> <p>自分の書いた英文を振り返り、書き直してみよう</p>	<p>◎マグネットシートを用いて本時の学習活動を知らせる。</p>	
20	<p>○書いた文章が自分の意見や考えを正しく伝えているかという視点で学び合い活動を行う。 [学習形態：グループ] [英文チェックリスト] {ワークシート4}</p> <p>・ワークシート4を交換し、お互いに原稿を読み合って改善点を見つけ、チェックリストに書き出す。</p>	<p>◎同じテーマを選んだグループでお互いに自分の書いた意見文(ワークシート4)を交換させる。教師の作成したチェックリストをもとに相手の書いた英文を生徒同士で点検させる。</p> <p>◎チェックリストの点検項目は文章構成面・文法面・内容面から成り、改善点が具体的に書けるよう記述欄も設ける。</p> <p>◎内容面のチェックは支持文の内容を深めることにつながるが、発展的な学習なので「もっと知りたいことは？」や「一文付け加えたとしたら」など、条件を提示し、活動の前に具体例を出してから行わせる。</p> <p>■ 学習に遅れがちな生徒は文章構成面でのつなぎ言葉の有無や表現集を手がかりとして表面的な指摘でも可とする。</p>	<p>チェックリストの項目に従って他の生徒の書いた英文の改善点を指摘することができる。</p> <p>A 文章構成面・文法面・内容面の改善点がチェックでき、記述欄に具体的に書くことができる。</p> <p>B 文章構成面・文法面・内容面の改善点がチェックできる。 (観察、英文チェックリスト、振り返りシート5)</p>
20	<p>○ 指摘された改善点を基に自分の書いた英文を書き直す。 [学習形態：個人] {ワークシート5}</p> <p>・改善点をワークシート5に書き出してから英文を書く。</p>	<p>◎他の生徒からのアドバイスをワークシート5に書き出させ、修正点を整理させる。</p> <p>◎自分の書いた英文に加除訂正させることにより、支持文の内容を深め、相手に伝えるという意識を持たせる。</p> <p>◎一度書いた文章を学び合いによって書き直すという活動を通して、自分の書いた文章を振り返り、文章構成や文法を意識して英文を書くことに気付かせたい。</p> <p>■ 学習に遅れがちな生徒には、前時に配布した表現シートや単語シートを手がかりに伝えたい内容が書けるよう援助する。</p>	<p>相手に伝わるようにわかりやすい表現を用いて書き直すことができる。</p> <p>A 改善点を反映して自分の書いた英文を加除訂正し、質量ともによりよい文を書いている。</p> <p>B 改善点を反映して自分の書いた英文を加除訂正し、相手に分かる表現で書いている。 (観察、ワークシート4、5、振り返りシート5)</p>
5	<p>○本時の学習を振り返り自己評価する。 [学習形態：個人] {振り返りシート5}</p> <p>・ワークシート5を教師に提出する。</p>	<p>◎ワークシート5を回収し、文章構成・文法・語彙・内容などを総合的に点検し、次時に返却する。</p> <p>◎「チェックリストをもとに改善点を指摘し合う活動は自分の書いた文章の内容を振り返るのに役に立ったか」を確認する。</p> <p>◎次時は書いた文章を発表することを予告する。</p>	

1 学習目標

- 教師の添削を受けた意見文を清書し、発表することができる。
- 発表された意見文を聞いて支持文の内容を聞き取ることができる。

2 準備

ワークシート5・6、振り返りシート6

3 展開

時間	学習活動	◎指導上の留意点及び支援の工夫 (■「おおむね満足」に達していない生徒への手だて)	○具体の評価規準 A「十分満足」 B「おおむね満足」(評価方法)
5	○本時の学習内容を知る。	◎教師が添削したワークシート5(前時の授業の最後に提出させたもの)を返却し、ワークシート6に清書させる。本時は自分の書いた意見文を発表することを伝える。	
15	<p style="text-align: center;"><b>意見文の発表を聞いて、伝えようとしている内容を聞き取ろう</b></p> <p>○教師の添削を受けた意見文を清書し、発表に向けて読みの練習をする。 [学習形態:個人] {ワークシート5・6}</p> <p>・返却されたワークシート5の添削箇所を確認してワークシート6に清書する。</p> <p>・「よい発表の仕方」に留意しながら読みの練習をする。</p>	<p>◎教師が添削した箇所を確認させ、机間指導をしながら生徒からの疑問点や質問などに受け答えをする。</p> <p>◎ワークシート6に掲載した「よい発表の仕方」を説明してから、清書した意見文を読む練習を行わせる。</p> <p>◎聞き手に正確に伝えることを意識しながら適切な速さや声の大きさと読みよう指示する。</p> <p>■正しく読めるよう個別に支援する。</p>	<p>発表した意見文が、三段構成により聞き手に正しく伝えることができる。</p> <p>A 支持文が3文具体的に述べられており、主張が一貫している。</p> <p>B 支持文が3文述べられ、主張が一貫している。 (観察、ワークシート6)</p>
25	<p>○自分の書いた意見文を発表し合う。 [学習形態:グループ] {ワークシート6}</p> <p>・同じテーマを選んだグループの中で発表の順番を決め、一人ずつ発表する。</p> <p>・同じテーマで違う立場を選んだグループに対して一人ずつ発表しあう。</p> <p>・各グループの代表が発表する。</p>	<p>◎発表者以外の生徒がテーマ文を読んでから発表するように指示する。</p> <p>◎聞き手は発表者の支持文の内容が聞き取れるよう注意深く、共感した態度で聞くように指導する。</p> <p>■机間指導をしながら聞き手にしっかり伝えられる発表になるよう個別に支援する。</p> <p>例: テーマ文1の場合(日本語表記) 「中学生にとって昼食は弁当がよいか、給食がよいか」</p> <p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">弁当派の意見</span> ← → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">給食派の意見</span> </p> <p>◎発表させることにより、相手に伝えるという意識を持たせる。</p> <p>◎テーマ1～4までのそれぞれの立場(8種類のグループ)の代表者に発表してもらい、いろいろな意見や考えがあることを聞き取らせる。</p>	<p>「よい発表の仕方」 Loudly(大きな声で相手に伝える) Clearly(はっきりと相手に伝える) Kindly(優しくアイコンタクト) Fluently(すらすらとメリハリを)</p> <p>他の生徒が発表した意見文の内容が理解できる。</p> <p>A 理由や根拠を表す支持文の内容がよく聞き取れる。</p> <p>B 理由や根拠を表す支持文の内容がだいたい聞き取れる。 (観察、振り返りシート6)</p>
5	○本時及び6時間の学習を振り返り自己評価する。 [学習形態:個人] {振り返りシート6}	<p>◎本時の学習活動では「他の生徒の発表を聞いて、支持文の内容が理解できたか」を確認する。</p> <p>◎6時間の学習活動を通して意見文の書き方や文章構成、学び合いなどを通して分かったことを振り返り、まとめさせる。</p>	